

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2017年度(2018年3月期) 上期決算説明会

<アジェンダ>

1. 上期 連結業績
2. 通期 連結業績計画
3. 株主の皆様への利益還元
4. 中期経営計画の取組み状況

日時：2017年11月2日 16:00 - 17:00

場所：JPタワー ホール&カンファレンス

- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。
 - B A: ビルディングオートメーション
 - A A: アドバンスオートメーション
 - L A: ライフオートメーション
- 3) azbilグループの売上は下期に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、上期の利益は下期に比べて低くなる傾向があります。
- 4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

1. 上期 連結業績

1. 上期 連結業績 経営成績



- 受注高は、AA事業とLA事業が増加し、全体として大きく増加。
- 売上高は、BA事業で増加したが、LA事業が前年度における事業構造改革・事業見直しの影響で減収となったため、全体では前年同期並みとなり、ほぼ期初計画値で着地。
- 営業利益は、事業環境の改善に加えて収益力強化に向けた取組みの成果が顕著なAA事業を中心に、BA事業、LA事業も着実に利益が改善し前年同期比・期初計画比ともに大きく増加。
- 営業利益の改善、為替の円安影響等により経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期比、期初計画比ともに増加。

[単位: 億円]

	当期	※						前年同期	対前年同期	
		修正計画 (2017/9/28)	対計画		期初計画 (2017/5/19)	対計画			増減	増減%
			増減	増減%		増減	増減%			
受注高	1,494						1,407	+87	+6.2	
売上高	1,178	1,180	△1	△0.1	1,190	△11	1,176	+2	+0.2	
国内	967						963	+3	+0.4	
海外	211						212	△0	△0.3	
売上総利益	426						397	+29	+7.4	
%	36.2						33.8	+2.4P		
販売費及び一般管理費	349						348	+1	+0.4	
営業利益	77	73	+4	+6.0	58	+19	49	+28	+57.0	
%	6.6	6.2	+0.4P		4.9	+1.7P	4.2	+2.4P		
経常利益	81	75	+6	+8.2	57	+24	42	+39	+92.8	
税金等調整前四半期純利益	80						32	+48	+151.7	
親会社株主に帰属する四半期純利益	53	50	+3	+6.4	35	+18	23	+30	+129.5	
%	4.5	4.2	+0.3P		2.9	+1.6P	2.0	+2.5P		

※ 最近の業績の動向を踏まえ、2017年9月28日付で2017年5月19日に公表した連結業績予想を次の通り修正いたしました。
 売上高:1,180億円(期初計画比△10億円)、営業利益:73億円(同+15億円)、経常利益:75億円(同+18億円)、
 親会社株主に帰属する四半期純利益:50億円(同+15億円)

1. 上期 連結業績

セグメント別 - BA事業

- 受注高は、前年同期において複数年契約の大型案件※が計上されていたことによる反動等で前年同期比減少したが、引き続き事業環境は堅調であり、国内、海外ともに実質伸長。
- 売上高は、首都圏再開発等による堅調な事業環境を背景に前年度に強化したジョブ遂行体制の下で着実にジョブ案件の処理が進み、前年同期比、計画比ともに増加。
- セグメント利益は、費用負担の増加等があったが、利益改善の取組み、ジョブ遂行効率の改善に加えて、前年同期には一時的な引当費用の計上があったことから、前年同期比で増加。計画比でも増加。

[単位: 億円]

	当期	対計画			前年同期	対前年同期	
		期初計画 (2017/5/19)	対計画			増減	増減%
			増減	増減%			
受注高	731				751	△20	△2.7
売上高	508	500	+8	+1.8	494	+14	+2.9
セグメント利益	23	17	+6	+35.7	16	+6	+37.6
%	4.5	3.4	+1.1P		3.4	+1.1P	

※ 複数年契約の大型案件(市場化テスト): 当社では、契約期間が複数年にわたるサービス案件は、その複数年分の契約額を契約期間の初年度に一括で受注計上しております。前年同期においては、「市場化テスト」と呼ばれる官民競争入札制度を通して大型の複数年契約のサービス案件を受注計上いたしました。この「市場化テスト」は、入札により決定する元請企業が主体となり、提供するサービスに適した専門業者を用いて、対象となる建物に係わる様々なサービスを提供するものであります。また契約期間が3年から5年間と長期にわたるため、代表企業の受注動向には大きな影響が出る一方、単年度での利益の影響は限定的となります。

1. 上期 連結業績

セグメント別 - AA事業

- 前年度より取り組んでいる3つの事業単位(CP事業、IAP事業、SS事業)でのオペレーションを徹底し、各事業の拡大に向けてターゲットとした製品及び地域での積極的な拡販活動を展開。半導体製造装置等の市場環境も堅調。
- 受注高が大幅に伸長し、売上高も、前年同期における大型案件計上の反動があるなか前年同期並みとなり、ほぼ計画値で着地。
- セグメント利益は、事業収益力強化の取組みにより前年同期比で大きく伸長し、計画比でも増加。セグメント利益率9.8%と体質改善が大きく進む。

[単位: 億円]

	当期				前年同期		
		期初計画 (2017/5/19)	対計画		増減	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	520				457	+63	+13.8
売上高	462	465	Δ2	Δ0.6	460	+1	+0.4
セグメント利益	45	34	+11	+33.0	25	+19	+74.2
%	9.8	7.3	+2.5P		5.6	+4.1P	

1. 上期 連結業績

セグメント別 - LA事業

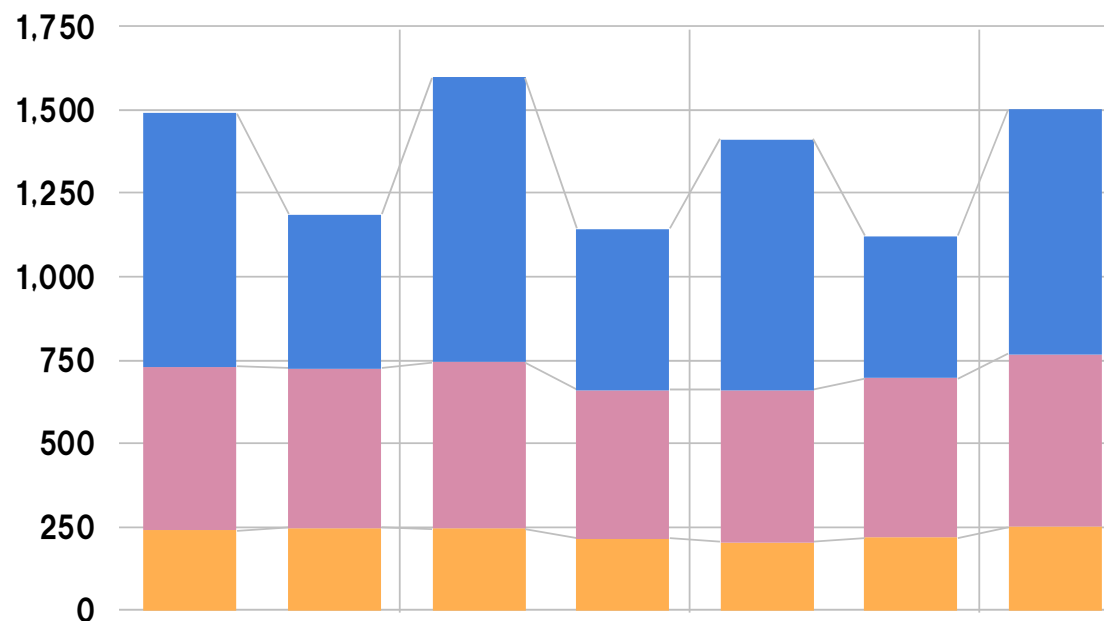
- LA事業の受注が前年同期比で大きく増加。ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野において、収益改善を目的とした構造改革の実行により、選択・集中した事業領域が当期において伸長。他の分野も堅調に推移。
- 売上高は、前年同期比で減少。LSE分野が前年度における受注減少を要因として当期の売上高が減少したことを主因とする。他の事業分野も前年並みにとどまり、計画比未達。
- セグメント利益は、LSE分野における事業構造変革の成果を主因に利益改善が進み前年同期比で増加し、計画を達成。

[単位：億円]

	当期				前年同期		
		期初計画 (2017/5/19)	対計画		増減	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	249				204	+45	+22.2
売上高	214	230	△15	△6.9	226	△12	△5.4
セグメント利益	8	7	+1	+26.9	6	+2	+37.3
%	4.1	3.0	+1.1P		2.9	+1.3P	

1. 上期 連結業績

[参考] セグメント別受注高 推移



[単位：億円]

年度	2014		2015		2016		2017
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ BA事業	761 ^{※1}	461	855 ^{※3}	483	751	425 ^{※4}	731
■ AA事業	491	479	501	447	457	480	520
■ LA事業	238	246 ^{※2}	243	214	204	216	249
連結	1,487	1,181	1,597	1,138	1,407	1,116	1,494

※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しております。

※2 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。なお、受注高については2014年度第3四半期までを連結しております。

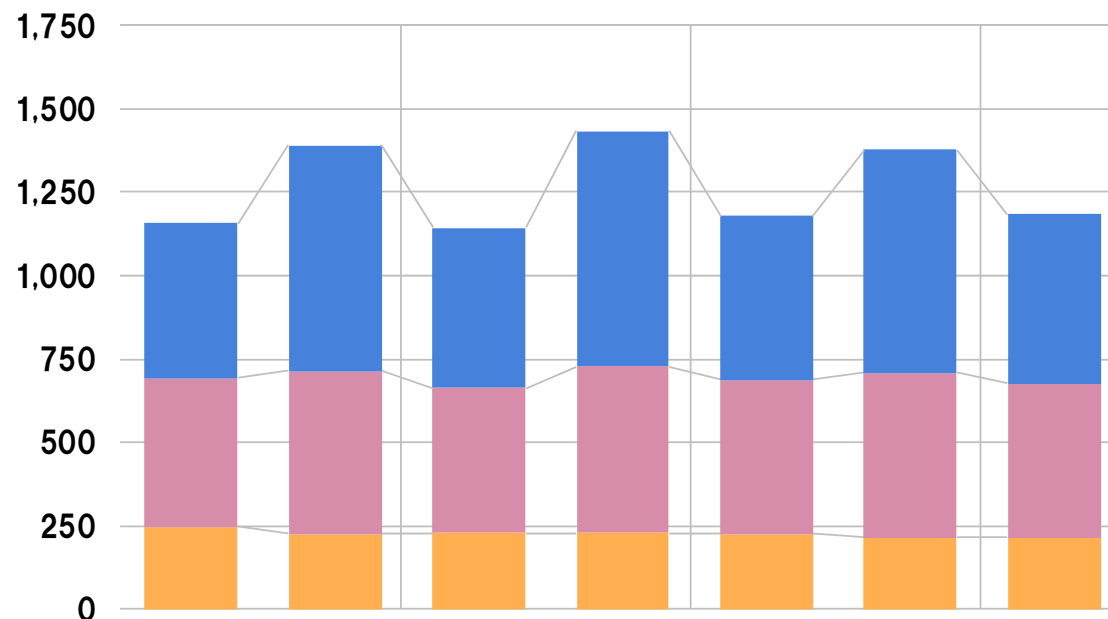
※3 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加しております。

※4 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。これに伴い同社の受注残高を取り崩し、連結受注高より控除しております。

1. 上期 連結業績 [参考] セグメント別売上高 推移



[単位：億円]



年度	2014 上期	2014 下期	2015 上期	2015 下期	2016 上期	2016 下期	2017 上期
BA事業	466	676	481	706	494	669 ^{※2}	508
AA事業	445	490	436	498	460	494	462
LA事業	247	225 ^{※1}	227	229	226	214	214
連結	1,156	1,387	1,140	1,428	1,176	1,372	1,178

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、売上高については2014年度第3四半期までを連結しております。

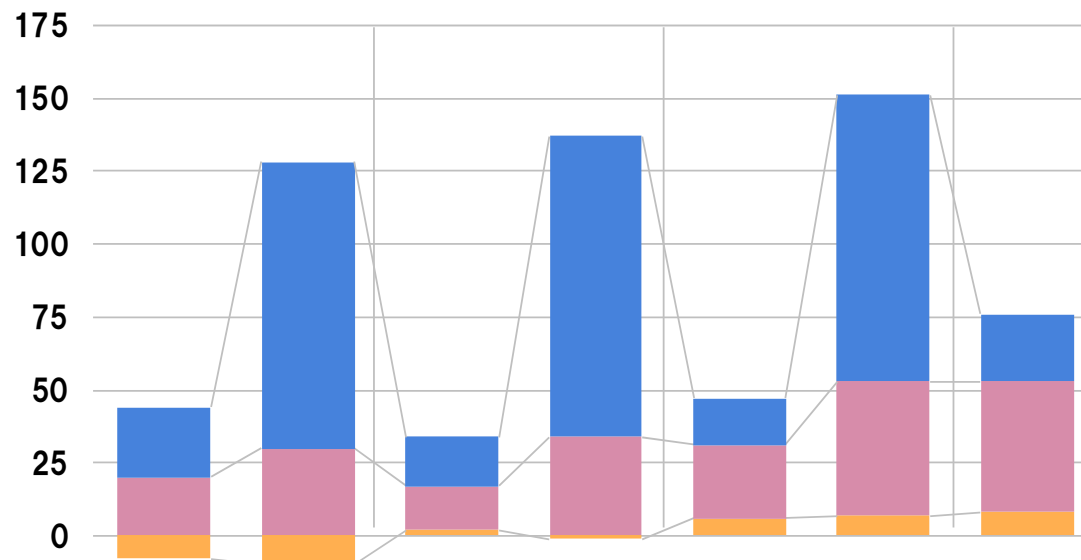
※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、売上高については2016年度第3四半期までを連結しております。

1. 上期 連結業績

[参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2014 上期	2014 下期	2015 上期	2015 下期	2016 上期	2016 下期	2017 上期
■ BA事業	24	98	17	103	16	98 ^{※2}	23
■ AA事業	20	30	15	34	25	46	45
■ LA事業	△8	△10 ^{※1}	2	△1	6	7	8
連結	35	117	35	135	49	152	77

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
 なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
 なお、損益については2016年度第3四半期までを連結しております。

1. 上期 連結業績 海外エリア別売上高

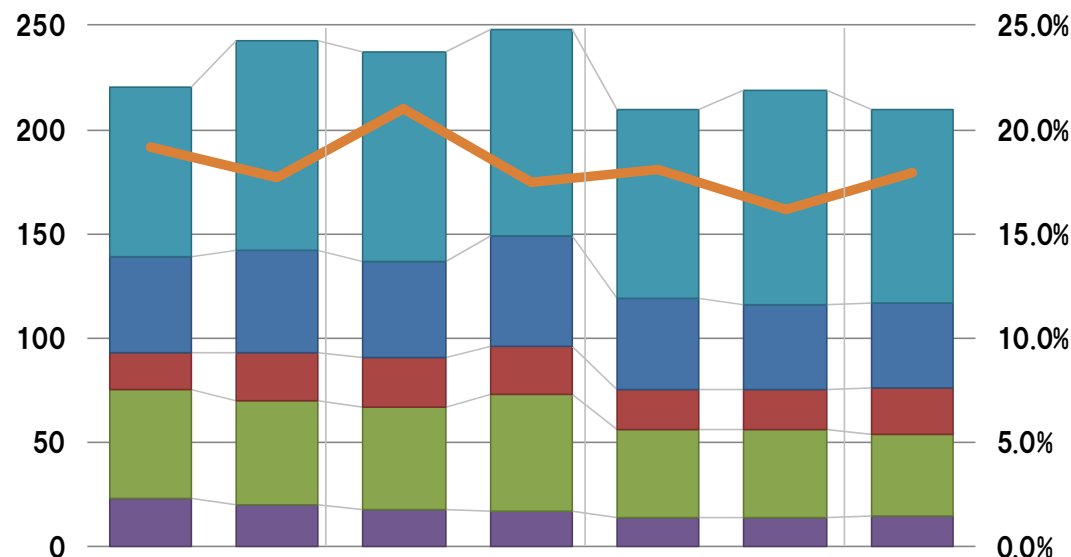


[単位: 億円]

<対前年同期>

海外売上高は、アジア・北米地域が伸長し、中国や欧州の事業見直しの影響をカバーして、前年同期水準を確保。

- アジア地域は、CP事業(AA事業)とローカル案件獲得が進むBA事業が伸長し、全体で増収。
- 中国は、AA事業が拡大したが、BA事業の子会社譲渡による影響から全体では減収。
- 北米は、AA事業の装置メーカー向け販売が好調で増収。
- 欧州は、LSE分野(LA事業)の売上が、前年度における一部事業の見直しと構造改革による受注減少の影響を受けて減少し、全体として減収。



年度	2014		2015		2016		2017
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ アジア	81	101	100	99	91	103	93
■ 中国	46	49	46	53	44	41	41
■ 北米	18	23	24	23	19	19	22
■ 欧州	52	50	49	56	42	42	39
■ その他	23	20	18	17	14	14	15
連結	221	245	240	249	212	221	211

(ご参考)

— 海外売上高%	19.1%	17.7%	21.0%	17.5%	18.0%	16.1%	17.9%
期中平均レート(USD)	102.46	105.79	120.31	121.11	111.74	108.81	112.34
期中平均レート(EUR)	140.42	140.35	134.10	134.31	124.58	120.30	121.66

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含まず。
 ※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用。

1. 上期 連結業績 財政状態



azbilグループの資産・負債は事業等の季節的要因により、上期末は前年度末と比べて減少する傾向にある。

- 資産 売上債権の減少により、前年度末比100億円の減少。
- 負債 仕入債務の減少に加えて、未払法人税等や賞与引当金が減少し、前年度末比109億円の減少。
- 純資産 配当金の支払に加えて、自己株式の取得による減少があった一方、利益※の計上とその他の有価証券評価差額金の増加により、全体として前年度末比9億円の増加。

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益

[単位: 億円]

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
流動資産	1,892	2,041	△ 148	負債	865	975	△ 109
現金及び預金	453	539	△ 85	流動負債	728	840	△ 112
受取手形及び売掛金	777	885	△ 107	仕入債務	367	404	△ 36
棚卸資産	240	221	+18	短期借入金	103	106	△ 3
その他	420	394	+25	その他	257	329	△ 72
固定資産	640	592	+48	固定負債	137	134	+2
有形固定資産	246	232	+14	長期借入金	4	5	△ 0
無形固定資産	52	53	△ 1	その他	132	129	+2
投資その他の資産	340	305	+34	純資産	1,666	1,657	+9
				株主資本	1,533	1,546	△ 12
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	116	123	△ 6
				利益剰余金	1,381	1,364	+17
				自己株式	△ 69	△ 46	△ 23
				その他の包括利益累計額	114	91	+22
				非支配株主持分	18	19	△ 0
資産合計	2,532	2,633	△ 100	負債純資産合計	2,532	2,633	△ 100

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 65.1%、前年度末 62.2%

1. 上期 連結業績 キャッシュ・フローの状況

- 営業活動によるキャッシュ・フローは前年同期比でほぼ同水準となり、投資活動によるキャッシュ・フローにおいて有価証券の取得による支出が増加し、さらに国内の工場の統合に向けた有形固定資産の取得による支出が増加したことで、フリー・キャッシュ・フローは前年度比72億円の減少。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出が増加したことを主因に前年同期比47億円の支出の増加。

[単位：億円]

	当 期	前年同期	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	62	68	△5	△8.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75	△9	△66	-
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	△13	58	△72	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△73	△25	△47	-
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△15	+15	-
現金及び現金同等物の増減額	△87	17	△104	-
現金及び現金同等物の期首残高	598	559	+38	+7.0
現金及び現金同等物の期末残高	510	576	△65	△11.4

(ご参考)

設備投資	37	16	+20	+128.6
減価償却費	19	19	△0	△1.1

2. 通期 連結業績計画

2. 通期 連結業績計画 業績計画



通期の業績計画は、上期の業績結果並びに下期の事業見通しを反映し、売上高は期初計画比△10億円の2,600億円とするが、損益面では、営業利益235億円(+15億円)、経常利益235億円(+20億円)、当期利益165億円(+25億円)と上方に修正する。

事業環境は、期初想定範囲で推移しており、各事業施策も着実に進捗している。持続的成長に向けての商品開発、海外事業基盤の整備に取り組みながら、前年度比で増収、増益を目指す。

[単位：億円]

	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度	
			増減	増減%		増減	増減%
売上高	2,600	2,610	△10	△0.4	2,548	+51	+2.0
営業利益	235	220	+15	+6.8	201	+33	+16.7
%	9.0	8.4	+0.6P		7.9	+1.1P	
経常利益	235	215	+20	+9.3	204	+30	+14.8
親会社株主に帰属する当期純利益	165	140	+25	+17.9	131	+33	+25.4
%	6.3	5.4	+1.0P		5.2	+1.2P	

2. 通期 連結業績計画 セグメント別計画

- BA事業：堅調な事業環境を背景に、前年度に整備したジョブ遂行体制の下で着実に案件処理を進め、前年同期比、期初計画比での利益拡大を実現する。
- AA事業：3つの事業単位によるオペレーションの下、成長戦略と収益力強化を推し進め、事業伸長と利益率改善を継続する。
- LA事業：引き続き、利益体質の改善、定着に注力する。

[単位：億円]

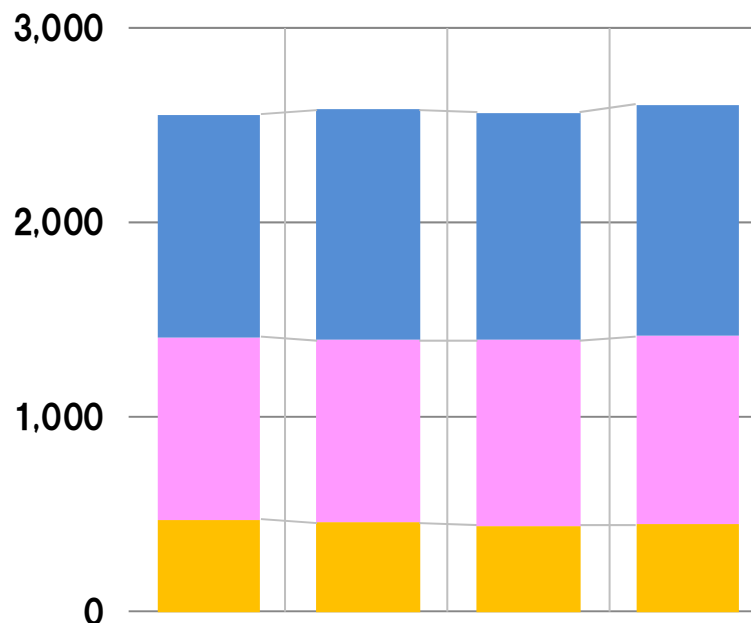
	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度	
			増減	増減%		増減	増減%
■ BA事業 売上高	1,190	1,190	-	-	1,164	+25	+2.2
セグメント利益	125	120	+5	+4.2	115	+9	+8.6
%	10.5	10.1	+0.4P		9.9	+0.6P	
■ AA事業 売上高	970	970	-	-	954	+15	+1.6
セグメント利益	92	83	+9	+10.8	72	+19	+27.7
%	9.5	8.6	+0.9P		7.5	+1.9P	
■ LA事業 売上高	445	460	△15	△3.3	441	+3	+0.9
セグメント利益	18	17	+1	+5.9	14	+3	+26.7
%	4.0	3.7	+0.3P		3.2	+0.8P	
連結 売上高	2,600	2,610	△10	△0.4	2,548	+51	+2.0
営業利益	235	220	+15	+6.8	201	+33	+16.7
%	9.0	8.4	+0.6P		7.9	+1.1P	

※ 中期経営計画(2017~2019年度)作成にあたり、主に事業規模・人員数を基準とした各セグメントにおける本社費負担額の変更を実施しております。これにより、BA事業で負担が増加し、AA事業で減少しています。

2. 通期 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移

azbil

[単位：億円]



年度	2014	2015	2016	2017 (計画)
■ BA事業	1,143	1,188	1,164 ^{※2}	1,190
■ AA事業	936	935	954	970
■ LA事業	473 ^{※1}	456	441	445
連結	2,544	2,568	2,548	2,600

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、売上高については2014年度第3四半期までを連結しております。

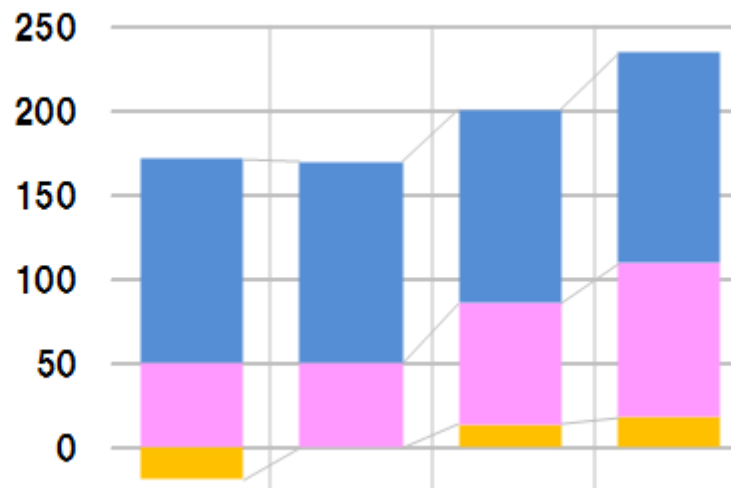
※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、売上高については2016年度第3四半期までを連結しております。

2. 通期 連結業績計画

[参考] セグメント利益(営業利益) 推移

azbil

[単位: 億円]



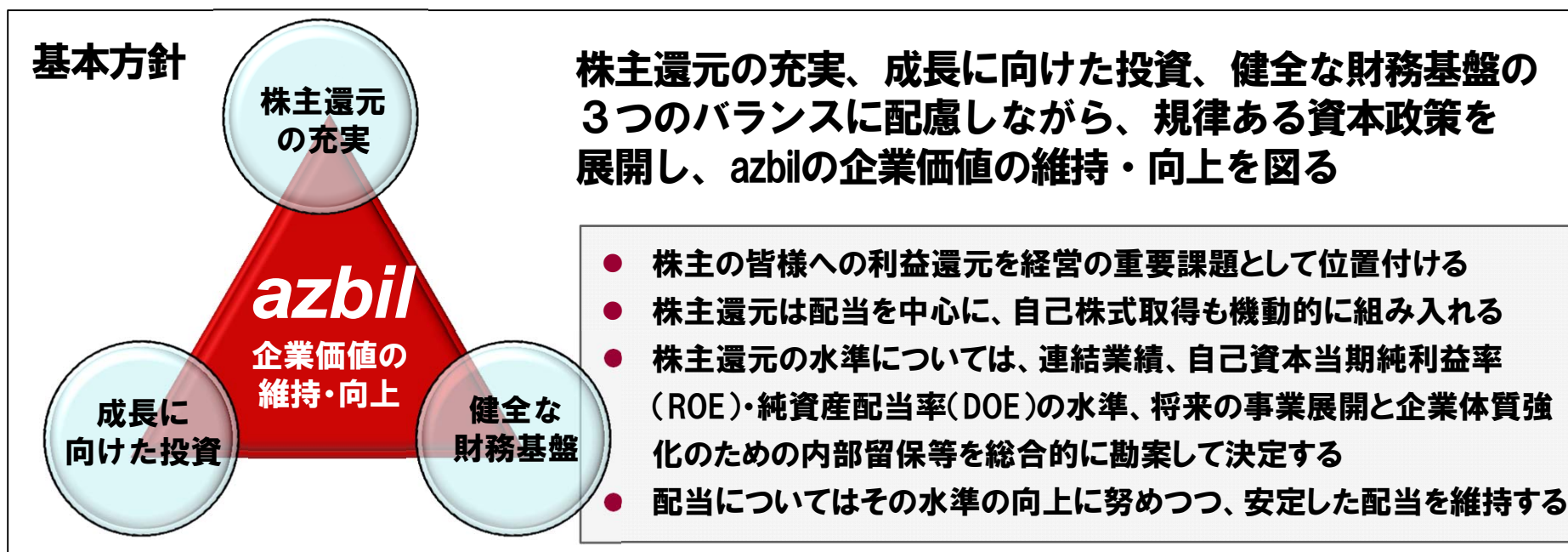
年度	2014	2015	2016	2017 (計画)
■ BA事業	122	120	115	125 ^{※2}
■ AA事業	50	50	72	92
■ LA事業	△19 ^{※1}	0	14	18
連結	153	171	201	235

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2016年度第3四半期までを連結しております。

3. 株主の皆様への利益還元

→期初計画から修正なし



3. 株主の皆様への利益還元 配当金



2017年度 配当計画 → 期初計画から修正なし

配当金（年間）：1株当たり82円

（前年度の記念配当5円を普通配当に組み入れた上で、さらに普通配当5円増配）

これまでの事業構造改革、収益体質強化策の進捗を踏まえ、現中期経営計画のもと安定的・持続的な成長が見込まれることから、前年度の記念配当(5円)を普通配当に組み入れた上で、さらに5円増配を計画。

■ 2017年度(中間配当/期末配当)計画

	2016年度		2017年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	37.0	40.0	41.0	41.0(計画)
配当性向	42.9%		36.0%	
純資産配当率 (DOE)	3.5%		3.6%	

(ご参考) 2017年9月末時点 配当利回り 1.7%

4. 中期経営計画の取組み状況 (2017-2019年度)

4. 中期経営計画の取組み状況

中期経営計画(2017-2019年度)の方針・目標



「人を中心としたオートメーション」の理念に基づいた企業運営を推し進め、
長期目標(2021年度)への第2ステップとして
現中期経営計画(2017~2019年度)を策定

グループ理念

人を中心としたオートメーション

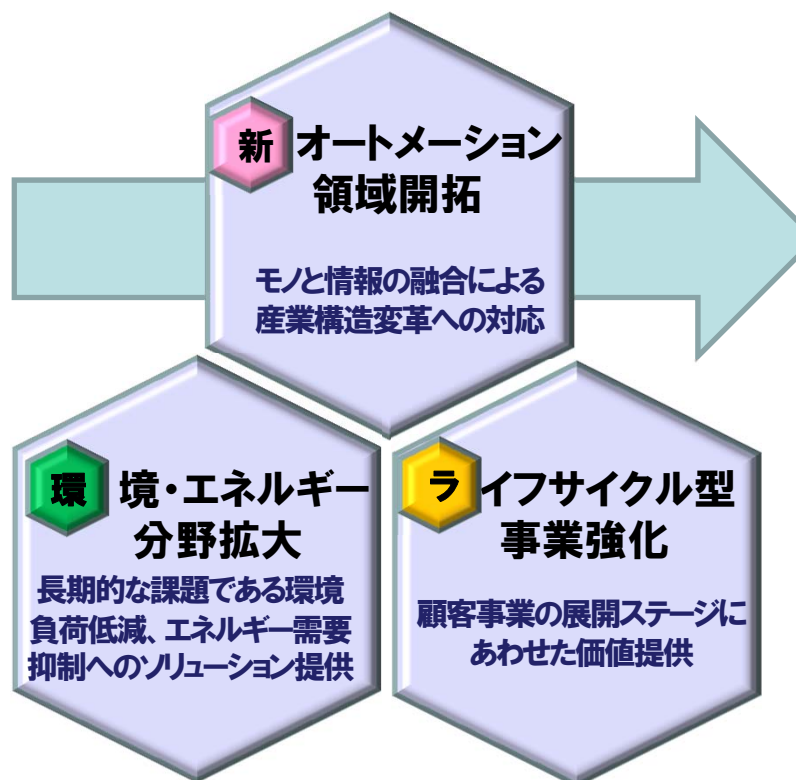
3つの基本方針

- 技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」へ
- 地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」
- 体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」を目指す

前中期経営計画

(2013-2016)

- 事業構造改革、基盤整備、成長領域開拓での成果



持続的な成長が期待される上記3つの事業・領域の拡大に向けて投資・体制整備、各事業セグメントでの施策展開を着実に実施することで現中期経営計画、長期目標を実現する。

業績目標

● 中期経営計画 (2017-2019年度)

2019年度(最終年度)
営業利益 250億円
売上高 2,700億円
ROE 9%以上

● 長期目標

2021年度
営業利益 300億円以上
売上高 3,000億円規模
ROE 10%以上

4. 中期経営計画の取組み状況

ビルディングオートメーション事業 **BA**

azbil



新たなビルディングオートメーションシステム savic-net™G5の投入

- クラウド、IoT等の技術革新に対応するオープンネットワーク、先進のユーザーインターフェイス、高速監視制御を提供
- お客様の長期的な事業展開を支えるプラットフォーム
- 海外(タイ、シンガポール、スリランカ等)に続いて、国内ユーザーへの提供を開始予定



空調機用高性能バルブ、海外向けに品ぞろえを拡充

- 大容量空調に対応し、省エネルギーを実現する大口径モデル



「申告型空調システム」の共同実証実験を開始

- IoT技術を活用し、オフィスビル内在室者の快適性を把握し、省エネルギーと生産性の向上を実現



▲ ビルディングオートメーションシステム savic-net™G5

- ✓ 働き方改革の観点も併せて適正な労働時間でジョブを遂行できる体制を整備。新築建物案件のジョブ処理を着実に進めるとともにオリンピック後の既設建物改修需要拡大にも対応。
- ✓ 成長領域（海外、高付加価値サービス）拡大に向けた新商品開発。

4. 中期経営計画の取組み状況

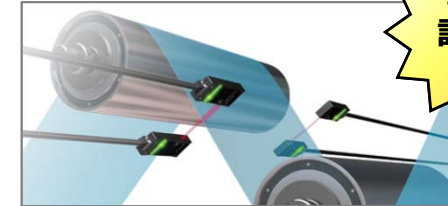
アドバンスオートメーション事業 **AA**



ラ 半導体、FPD(液晶、タッチパネル、有機EL)、二次電池等の、国内外で成長性のある先端市場に向けた品揃え、アプリケーション拡充

- 高機能フィルムや電子部品など様々な加工・組立の製造工程で、対象物の位置、厚み、幅などを計測する高精度位置計測センサ K1G(ケーワンジー)シリーズ※等

※最高レベルの表示分解能(0.1 μm)と高速な計測周期(250 μs)を実現



▲フィルムの蛇行計測アプリケーション



新 IoT技術活用によるスマート保安《熟練運転員の叡智を継承・超越》

- 高機能センサーを活用した設備診断データに基づく最適保全
 - ビッグデータを活用したオンライン異常予兆検知/未来変動予測
- 化学会社における事例検証では、熟練運転員より2時間半前に異常を検知
- 日本政府未来投資会議の先行事例として採択。日・タイ政府主催によるシンポジウム「Symposium on Thailand 4.0 towards Connected Industries」でもスマート保安が注目。
(写真はシンポジウムでの曾禰社長発表風景)



環 アズビル、4年連続で工場・事業場などの省エネルギー事業を支援する「エネマネ事業者」に

- 大規模工場におけるエネマネでトップクラスの実績(トップシェア※・全国平均の約2倍の採択率)



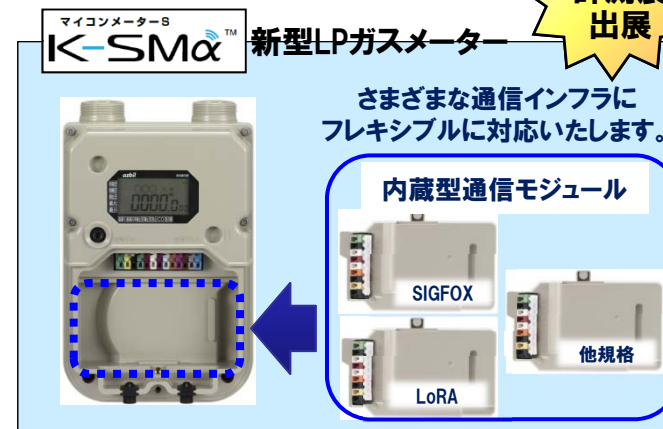
※全補助金採択実績による

- ✓ 3つのサブセグメント(CP、IAP、SS)によるマーケティングから開発、生産、販売、サービスまでを一貫して行える事業推進体制で、アズビルならではの強いオートメーション領域を開拓・深耕。
- ✓ 国内の実績を挺子とした製品・サービスの海外拡販。

4. 中期経営計画の取組み状況 ライフオートメーション事業 **LA**

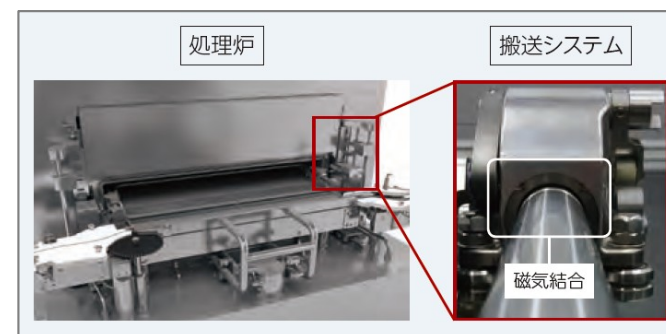
azbil

- 新** 新事業領域としてLPWA (Low Power Wide Area) ネットワークを活用したIoTによる遠隔自動検針実証事業への取組み
- －SIGFOXを活用した水道向け検針ソリューション（札幌、姫路）
 - －LoRaWAN (Long Range Wide Area Network) を活用したLPガス配送合理化（福岡）
 - －通信モジュールを内蔵し、IoT社会を見据えた新型メーター「K-SM α ™」を開発し、アズビルの製品側準備も完了



SCF/
計測展
出展

- ラ** 清浄度、滅菌性に優れた凍結乾燥装置向け自動搬送システムの開発
- －ラインの生産性、安全性向上のため、ニーズが高まっている自動搬送システムに新技術を適用、併せて小型化も実現
 - －LSE(ライフサイエンスエンジニアリング)分野における事業構造変革・事業見直しの一環としての製造装置事業の強化



- ✓ LA事業構成各分野の収益改善に向けた事業構造改革の推進。
- ✓ ガス等、自由化が進むエネルギー供給市場での事業機会創出。
- ✓ 製薬市場における製造装置領域でのオートメーションとサービス事業の開拓。

4. 中期経営計画の取組み状況 事業基盤のさらなる強化・整備

- 先進的なグループの生産体制の構築
— 湘南工場・伊勢原工場統合、タイ工場強化

アズビル 湘南工場・伊勢原工場

- アズビルの湘南工場と伊勢原工場(神奈川県)の生産機能を1工場(湘南工場)に集約
- 湘南工場をazbilグループの主力工場とし、モノづくりの拠点にふさわしい先進的生産体制の構築とさらなる効率化を推進

アズビルプロダクションタイランド タイ工場

- タイ工場を海外基幹工場として、生産規模を拡大・機能を強化
- グローバル生産体制(中国・タイ・日本)の一翼を担い、タイ・ASEAN他近隣アジアへの製品供給を拡大

- グローバル(海外・国内)での事業成長のための人材配置・育成

- アズビル・アカデミーによるグループワイドでの柔軟な人材再配置、グローバルでの人材教育システムの構築・強化
- 人材構成の現在構造と雇用環境の変化を先取りした総合施策への取組み

- IoTやAIを利用した製品、サービスの開発、市場投入の加速

- IoT、AI、ビッグデータ等を活用した商品・サービスの需要拡大に備え、これをビジネスチャンスとするために、先端技術に特化した開発・マーケティングを行う「ITソリューション本部」を設置、新商品開発に注力



▲ 湘南工場完成予想図(2019年完成予定)



▲ タイ工場増設完成予想図(2018年竣工予定)

【ご参考】

展示会出展のご案内

azbil

本項でご説明した新製品・サービスをご覧ください。

SCF2017 SYSTEM CONTROL FAIR 計測展2017 TOKYO

- 会期:2017年11月29日(水)~12月1日(金)
- 開場時間:10:00-17:00
- 会場:東京ビッグサイト 西1・3・4ホール・アトリウム
- アズビルブース展示内容(小間番号4-38)
「アズビル×IoTがつなげる、ものづくり企業の未来
新次元の生産性へ！」
Smart Manufacturing、装置マネジメント、スマート
保安、エネルギーマネジメントソリューション他、
新たな技術を活用した価値やソリューションをご紹介



▲ SCF・計測展アズビルブースイメージ図

第2回 スマートビルディング EXPO

- 会期:2017年12月13日(水)~12月15日(金)
- 開場時間:10:00-18:00 (最終日は17:00まで)
- 会場:東京ビッグサイト 東6ホール
- アズビルブース展示内容(小間番号3-26)
「高層ビルから工場・住宅まで、
アズビル×IoTがつなげる未来の都市、建物」
savic-net™G5、ビル向けクラウドサービス他、最新の
テクノロジーを駆使した製品・アプリケーションをご紹介



▲ スマートビルディングEXPO
アズビルブースイメージ図

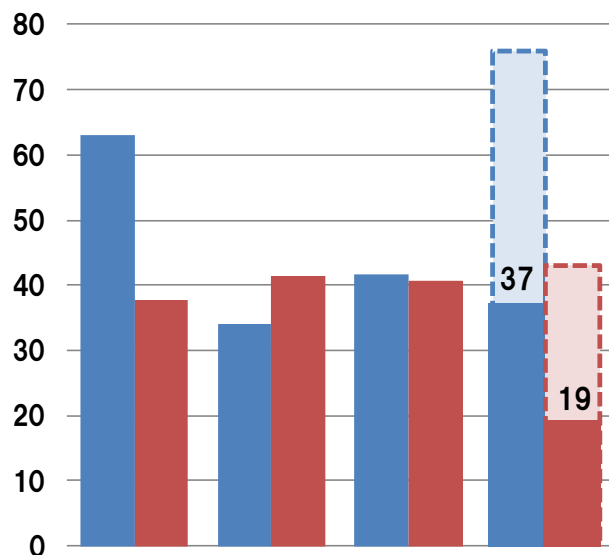
補足資料

設備投資・減価償却費／研究開発費



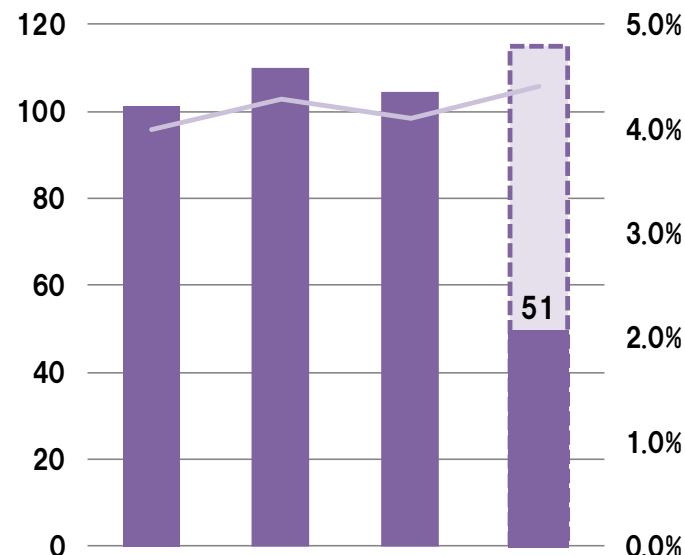
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



年度	2014	2015	2016	2017
■ 設備投資	63	34	41	76
■ 減価償却費	37	41	40	43

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2014	2015	2016	2017
■ 研究開発費	101	110	104	115
— 研究開発費率	4.0%	4.3%	4.1%	4.4%

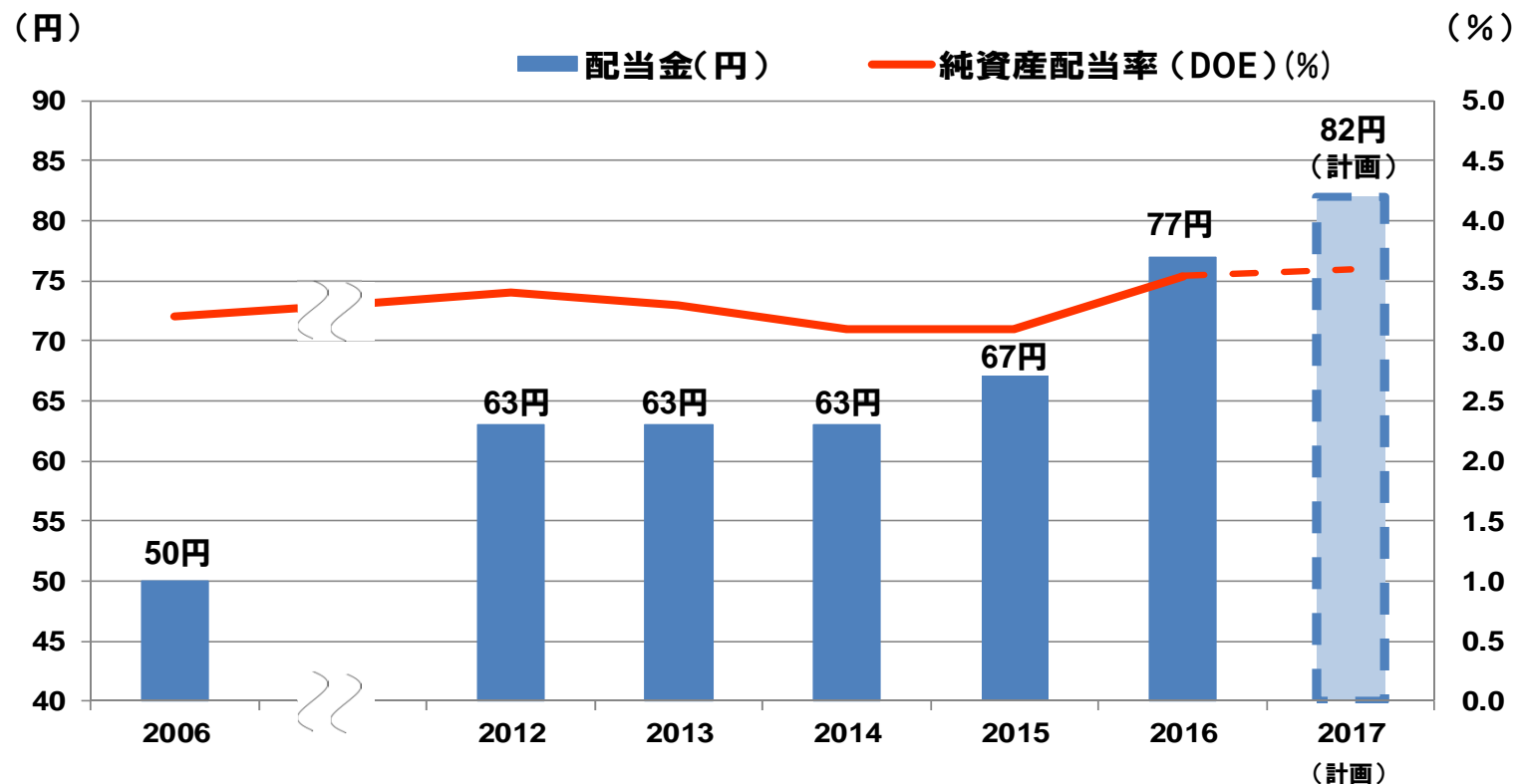
※1 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資と、海外における生産設備への投資が発生しております。

※2 2017年度から、湘南・伊勢原工場の統廃合、藤沢テクノセンター研究・開発拠点整備に係る投資を計画しております。

※3 主に次世代BAシステム製品の開発のため研究開発費が増加しております。

※4 技術革新(IoT、ビッグデータ、AI等)に対応した製品開発関連費用による増加を計画しております。

補足資料 株主還元の推移



配当金(円)	50	~	63	63	63	67	77	82
純資産配当率(DOE)(%)	3.2	~	3.4	3.3	3.1	3.1	3.5	3.6

自己株式取得(万株)		~				60		71*
------------	--	---	--	--	--	----	--	-----

※ 2017年6月23日に自己株式取得を完了。

「株式給付制度」 導入に伴う 自己株式処分

- 株主価値を共有し、企業価値向上の社員インセンティブを高めることを目指す「株式給付制度」の導入に伴い自己株式(100万株)を第三者割当処分
- 第三者割当実施日:2017年5月29日

自己株式消却

- 「株式給付制度」導入に伴う第三者割当処分後の残りの自己株式(86万5千659株)を全株式消却
- 消却実施日:2017年5月31日

自己株式取得

- 資本効率の向上を図るとともに、今後の業績の見通しを反映して、株主の皆様への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすべく自己株式取得(71万4千300株約30億円)を実施
- 取得期間:2017年6月2日～6月23日(受渡日基準)

**azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、
地球環境に貢献します。**
